

## 第3回 射水市小杉駅周辺地区まちづくり基本構想策定協議会 会議録

- 1 開催日時：令和3年1月22日（金）午後1時～2時30分
- 2 開催場所：射水市役所本庁舎 3階 会議室 302～304
- 3 出席者：

	氏名	組織・団体名	区分
会長	大西 宏治	富山大学 人文学部 教授	学識経験者
副会長	炭谷 靖子	富山福祉短期大学 学長	
	榊原 一紀	富山県立大学 工学部 准教授	
委員	籠浦 克幸	あいの風とやま鉄道株式会社 総務企画部長	公共交通事業者
	上野 裕之	有限会社小杉タクシー 代表取締役	
	瀬木 昭博	小杉まちづくり協議会	関係団体の代表者
	永森 豊	小杉まちづくり協議会	
	高田 忠直	小杉まちづくり協議会	
	(欠席)鳥内 雄輔	射水市商工会	
	三浦 美樹 (代理)金井 芳樹	射水青年会議所	
	(欠席)伊勢 達哉	宅地建物取引業協会高岡支部 副支部長	
	坂井 禎	高岡土木センター 所長	関係行政機関の職員
事務局	島木 康太	企画管理部長	市の職員
	一松 教進	財務管理部長	
	板山 浩一	市民生活部長	
	小見 光子	福祉保健部長	
	谷口 正浩	産業経済部長	
	島崎 真治	都市整備部長	
	前川 信彦	上下水道部長	
	原 宗之	教育委員会事務局長	
	木田 徹	消防長	
	小塚 悟	企画管理部政策統括監兼企画管理部次長	
	盛光 寛人	政策推進課長	
担当課	佐藤 昌宏	政策推進課 主幹	
	篠原 智成	政策推進課 主査	
	樫葉 友一	政策推進課 主事	

#### 4 議題

##### (1) 射水市小杉駅周辺地区まちづくり基本構想（素案）について

##### ●事務局から資料1について説明

会 長：最初に、第3章の「小杉駅周辺地区の将来像と基本方針」についてご意見をお願いしたい。まず、文教ゾーンとして色々な取組を想定してまとめているが、高等教育機関の立場からご意見をうかがいたい。

副会長：方針1～4については個々の課題であり、方針5はそれらの課題を総括的に解決するために、高等教育機関との連携を図っていくということだと思う。地域の課題に対して、方針5で挙げている高等教育機関と地域等が連携して課題を解決していくアーバンデザインセンターのような仕組みは重要であり、そういう意味では方針5の位置付けは必要である。

会 長：アーバンデザインセンターは、高等教育機関と地域とが関わるわかりやすい形だと思う。アーバンデザインセンターが拠点となり、地域にある高等教育機関と民間事業者等が協働で事業を行っていくと、そこからさまざまな展開が期待できると思う。高等教育機関の地域におけるあり方が問われている中で、地域と大学が結びつく方法の一つとして展開できると良い。ただ、大学だけでやることではないため、地域住民と自治体と高等教育機関等が連携し、実を伴ったものになれば良いと思う。

副会長：富山福祉短期大学の学生は福祉看護教育を専門に学んでいるので、方針1にある「子育てしやすいステーションエリアの創造」に挙げられているような子育てしやすいエリアを学生の学習と実践を兼ねて創っていくことや、健康相談を受ける等、様々な授業の中で地域を学習の場として活用していくことが可能である。

また、「「知」のプラットフォームとしての拠点の創出」という面では、領域が異なる学生同士の交流や、一緒に協働していける場として活用できればと思う。そのためには大学同士が連携し、活動を作っていくシステムが大事である。

会 長：大学の中の学びでは、大学という特殊な空間の中で実世界に関係することを学んでいくかたちとなるが、実際の教材がまちなかにあるのは良い。また、高等教育機関がいくつかある中で、分野が異なるもの同士が交流すると、新しいものが生まれてくる可能性はある。

委 員：現在の人口構造を見ると40代のボリュームが大きくて、そこから先細るような状態である。加えて、本基本構想の期間が20年ということであれば、20年後には、今の40代が60代に、20代が40代になる。こうした変化を踏まえつつ小杉駅周辺地域の20年後の姿をどのように描けるのかを前提に話したい。まず、24ページの小杉駅周辺地区の弱みとしてまとめられているところの「空き店舗・空き家の増加」について、空き家が課題というよりも、どこが空いているのかを把握できていないことが大きな課題であり、空き家等を活用してい

くための諸制度や、仕組みが整っていないことが弱みである。

次に、「駅南北往来」では、「駅南北の市街地は鉄道で分断」という記載があるが、地域としてもあいの風とやま鉄道が分断しているとは思っていないで、南北往来の利便性がよくない程度に捉えており、ただ、踏切遮断時間がもう少し短くあれば良い。

「歴史・伝統文化の継承」については記載のとおりだと思っている。小杉まちづくり協議会が頑張っている事業に若い人たちが参加できていないところが弱みであって、もっとアピールすることができれば良い。

25 ページの②「生活の利便性を活かした居住環境の維持・充実」の中で、「今後予想される人口減少による活力の低下を見据え」とあるが、明らかに活力が低下しますという前提で書いてある。活力の低下を見据えるのであれば居住人口を増やしていくことを目的として、生活利便性の高い居住地としてのポテンシャルを活かし、人口増加を図っていく方が良い。

④「地域の歴史・文化・自然環境の保全と継承」については、現在の定住意識だけでなく将来に渡って住み続けてくれる子どもも、孫も、曾孫もということ想定し、20年の期間の中で5年10年というふうに積み重ねて行かなければならないのではないかと思っている。

最後に27ページについて、「レクリエーション」という文言が記載されているが、この言葉は何を指しているものになるのか。

事務局：24、25ページのご指摘いただいた点については、修正を検討したい。

また、射水市都市計画マスタープランのまちづくり方針にある「レクリエーション」については、本市は海に面していたり、里山があったり等、自然環境が広がっており、太閤山ランド等のレジャーエリアもある。そういった自然が豊かでレジャー等を楽しむことができるまちという意味合いで「レクリエーション」という文言を使用している。

会長：27ページに「レクリエーション」という文言の記載については、都市計画マスタープランのまちづくり方針としての記載であり、今回の基本構想の対象地域において、具体的なものを指すというものではないということである。

委員：まちづくりの将来像については前回の会議から整理いただき、ふさわしいものになった。この将来像や方針に向けてしっかりと進めてほしい。49ページ以降でまとめてある想定スケジュールについて短期・中期・長期に分けてあるが、5年以内着手の短期のところ具体的に誰がいつまでにやるのか、どのようなかたちで進めていくのかということを確認しなければならない。小杉まちづくり協議会の活動の蓄積もあるので、一緒にやっていければと考えている。

事業実施に当たり都市計画における予算の具体的な裏付けが必要となってくる。

また、今朝の新聞に県立大学の地域協働事業についての記事が掲載されて

おり、学生が地域に対して色々な提言を行ったとあった。そのような提言は、地域のまちづくりに関わる方々も聞きたいので、そのような場を設けていただきたい。

会 長： 49～53 ページにまとめてある事業について、具体的にどの部分を誰が・いつ・どこで・どんなかたちで行うのかということはある程度示さないと書いてただけになるのではないかという危惧が示された。この点について、事務局の意見をうかがいたい。

事務局： 49～53 ページの想定スケジュールにおいて、高等教育機関との連携に関わるものや、小杉まちづくり協議会で既に事業着手しているものは短期着手で整理している。高等教育機関との連携については、地域の方、高等教育機関の各種団体の方々と連携しながら、地域課題解決やまちの活性化を図っていくものであり、次年度から事業化できるよう準備している。

委 員： 具体的に進めるための腹案があるということで良いか。

事務局： まず、どのようなかたちで、何を目指して進めていくのかという協議から始めていくので、構想に記載してあることがすぐに具現化できるということではないと思っている。小杉まちづくり協議会と協議・連携しながら進めていきたい。

委 員： 例えば都市計画マスタープラン策定の際にも地域でいろんな課題について議論してきたが、結局議論してまとめただけで終わってしまったので、継続性をもって進めていければと思う。小杉まちづくり協議会も一緒になって行っていきたいという意識はあるので、その辺はご理解いただきたい。

会 長： 構想の事業化を進めていくに当たり、検証するというプロセスが重要となるため、例えば、小杉まちづくり協議会で毎年確認していくような仕組みづくりも重要ではないかと思う。

委 員： 24 ページの「駅南北の市街地は鉄道で分断されており」という記載については気になっており、小杉の市街地を鉄道が通っているというような表現にしていきたい。また、踏切待ちが長く思われるかもしれないが、十分な安全を確保する必要があるため、その点は我慢していただきたい。

全体としては、これまでの議論を丁寧に整理して書き込んであるという印象を持っている。施設整備に関しては、小杉駅の橋上化に限らず、施設や都市基盤の整備等の構想を具体化するための方向性について、今後も十分に関係機関と協議調整を重ねていくことが大切と考える。とりわけ市街地の基盤整備ということになると、周辺の立地条件、環境さらには既設のものとの整合など物理的な課題がある。また、整備を進めていく上での財源確保といった財政的な課題があり、大きく言えば二つの課題があると思っている。弊社としても鉄道線の利用増につながるような整備については協力していきたい。

この構想の実現までにはこの先も長い時間を要すると考えるが、取組につ

いて市当局にいくつか確認をお願いしたいところがある。まず、個々の取組に関して市として推進すべき施策かどうかを考えてほしい。それから、実現可能性について十分検証してほしい。更には市全体でのコンセンサス形成、そして関係機関との調整という点を配慮して進めてほしいと思っている。

事務局： まず、24 ページの書き方については、修正させていただく。

第 5 章にある都市機能の集約化のイメージや駅周辺の基盤整備については、ご意見いただきながら進めていきたい。

当然これだけ大きな事業になると内部的なコンセンサスを得て、実現可能性や将来的な可能性も加味しながら進めていくということになる。基本構想は、駅周辺はこういうまちづくりを行っていききたいという案を描いた将来ビジョンである。

当然今後進めていくに当たり、どのくらいの規模のものが必要なのかというところも踏まえ、財源確保や、民間事業の参入を得ながら進めていくことが必要である。どのくらいの期間を要するかわからないが、あいの風とやま鉄道のご協力もいただきながら進めていきたいと思っている。

委員： これはあくまで基本構想であり、20 年も経てば世代も変わる。そういう未来をどう描くかというところを主体に進めながら、何を誰がどうやるかというところは追って考えるということだと思っている。ジョン・F・ケネディのムーンショット理論のように、少し大きな話になってもよい。こういうものを目指しながら進めていくという切り口で、誰が何をどうするかというところは追ってみんなで知恵を絞って、具体的にしていければと思う。

細かいところになるかもしれないが、49 ページ以降の構想の事業化のところ、検討してほしい項目がいくつかある。まず、49 ページの 1- (1) 「駅周辺への商業・サービス施設等の立地誘導」の項目に、にぎわい創出に関する文言を加えていただきたい。また 1- (3) 「学生と住民、事業者等の交流拠点の整備」の項目では、まちづくりに関心がある学生を対象にフィールドワークができ、学生と住民、事業者等がマッチングする拠点を設けるということだが、この拠点にまちの昔の姿等の歴史を発信できる要素があってもよいと思う。昨年のアート in 小杉でそのような歴史を感じるまちなみの写真が飾ってあり良いと思った。そういった写真を集めて陳列し、それを見に行くことによって昔こういう町だったんだということが分かる。そんな拠点も合わせてあったら良いと思う。

また、50 ページの 2- (1) 「地域のニーズに合わせた空き家等の利活用」という部分について、居住機能としての再生に居住促進の観点の追加と、空き家の実態把握から利活用のための諸制度の環境整備まで、文言としての追加を検討いただきたいと思っている。

事務局： 提案内容については調整・検討させていただく。まちの昔の姿等の歴史を発

信するという点については、52 ページ（方針 4）の「歴史・文化・自然を継承するまち・ひとづくり」のところで記載を検討したいと思う。

委員： この度の大雪から、防災や災害対応という観点はまちづくりにおいて重要な観点であるということが改めて感じられた。方針 2-(2)「安全・快適な住環境の整備」の中に、安全・快適な住環境の整備と防災性能の向上というような文言があるが、この中に今回の災害を踏まえて雪に強いまちづくりといったような文言の追加を検討してほしい。次に方針 2-(3)「多様性のある地域社会の形成」について、前は「多文化が共生するバリアフリー社会の形成」であり、今回バリアフリーの言葉が抜けているが、やはり多様性のある地域社会の形成にはバリアフリーが重要であるので、バリアフリーやユニバーサルデザインといったような言葉の追加を検討いただければと思う。

また、40 ページに前回指摘した駅の橋上化であったり、ペDESTリアンデッキの検討という記載がまだ残っている。将来的な展望ということで残したいということかもしれないが、現実的にペDESTリアンデッキについては再開発事業とセットで再開発ビルへ直接出入りできる、例えば高岡駅のウィングウィングと立体駐車場がつながってるようなイメージとして捉えるならば、現在の小杉駅の駅勢圏等を考慮すると、これだけのポテンシャルや必要性があるのか疑問である。

次に、南北道路の整備について、具体的に新たなという部分だが、新しい道路をつくるとすれば地下道か高架の道路にしないでほしいと思うが、そういうところも含めて都市計画としての位置づけを今後検討するという前提でここに描いているのか。今回 20 年先を見据えた基本構想であり、都市計画も 20 年先を見たものであるため、都市計画との整合性もやはり重要になってくる。

まちづくり方針の取組に対するイメージ例があるが、小杉駅の規模とは合わないものもあると思うので検討いただきたい。

ゾーニングの図面については、見れば見るほどこの地域は良い地域だということが分かる。真ん中に駅があって南北に街が広がっていて近くには歴史文化のゾーンがあり、さらには水辺の景観軸がある等、良いものが揃ってコンパクトにまとまってるところは県内の主要都市の中にもそう多くない。こういう資産を活かしていくことで本当に夢のある地域になると思っている。最後に 49～53 ページの推進体制等をまとめたものについては、推進体制の行政の欄は全部○が付いている。民間や住民が主体であっても行政がサポートするという意味だと思うが、推進体制の中心になる主体には、行政であれ民間団体・住民であれ◎を付けるといったようにメリハリをつけると分かりやすいと思う。また、想定スケジュールの短期・中期・長期については、例えば短期着手のものだけ、最後の方に集約してみせるというまとめ方をするというのも分かりやすい提示になるのではないか。

会 長： いくつも意見をいただいたが、まとめて事務局の方から意見はあるか。

事務局： いただいた提案部分については適切な文言に修正を検討させていただく。ペDESTリアンデッキについて今ほど委員がご指摘のように、再開発事業と一体的に整備することが必要と考えており、小杉駅の実情に合ってるのかどうかということはあるが、まちの将来像として周辺の再開発を含めた夢を描いて行きたいという思いも汲み取っていただきたい。バリアフリーについては、昨年射水市バリアフリーマスタープランを定めているので、その辺も踏まえて少しバリアフリーの記述について修正をしていきたいと思う。

会 長： 推進体制の見せ方に関しては、実施するときには誰が主体になるかを決めるのも良いと思うが、取り組む主体は全部〇がついてるけども、実際に実施するときには誰が中心になるかを、それぞれの時期に決めていくといったことで良いと考える。

委 員： これまでの話を聞いており、駅舎・南北自由通路・交通ターミナルの整備という3本柱が出てきたと思う。小杉駅をハブとして交通ターミナルを形成することについては、地域交通会議でも付随することだが、この話が先に進むことは困難であると感じている。

観光案内所の記載がないが、小杉地区全体の活性化に関しては観光案内も必要ではないかと思う。

バリアフリー化が一番大事だと思う。令和2年12月31日現在の市人口が92,329人で65歳以上の老年人口が30.7%である。また、20年後の2045年には65歳以上の老年人口が40%以上になる。このことを踏まえると、やはりバリアフリー化はどうしても必要ではないかと思う。バリアフリーの整備という点で、エレベーター等の整備の検討はあるのか。近年、タクシー事業者としても歩行が困難な方等の利用が増えている。バリアフリーについては考えていただきたい。

会 長： ハード整備の部分についていくつかご意見いただいた。今回の場合基本構想なので細かなハードのところまで詰めていないが、事務局からご意見を願います。

事務局： 交通ターミナル、自由通路等の駅のハード整備事業についてご意見をいただいた。駅の南側にある商業施設と北にあるホテルや旧北陸道の商店街をつなぐというまちづくりの観点から自由通路整備は必要であると考えている。また、観光案内所の記載がないという指摘もあったが、陸の玄関口として小杉駅を機能させるには観光案内所の整備は必要だと考えており、方針1の駅の多機能複合化の部分で位置づけていきたいと考える。また、駅を整備していく上で、バリアフリー化やエレベーターの整備は想定される。現在、駅構内にエレベーターがあるが一般の方は利用できていない。そのようなことを改善していく上でもこのような複合化というものが必要だと考えている。

委 員： 私からは質問ではなく、感想というかたちとなるが、良い構想だと思ってい

る。特に、方針1－(2)「子育てしやすいステーションエリアの創造」のところについて、射水市では大人同士の近所付き合いが年々減少しているというデータが出ている。ここに示されているような子育て中の親が交流できるようなスペースを整備することで子育ての話ができる機会や場所ができればよいと思う。この計画はぜひ実現していただきたい。

委員： 本基本構想を今後、地域住民にアナウンスするような機会はあるか。また、基本構想の期間が20年であることから、今の子どもたちにも知ってもらえればよいと思う。子どもたちがこういう構想を見て、大人になったときのまちを想像してもらうことで、このまちに留まってもらえるということにもつながっていくのではないか。

事務局： 本基本構想については、協議会の内容を踏まえ取りまとめた上で、2月1日からパブリック・コメントを行い、ホームページ等で広く市民に周知し意見をいただきたいと思っている。また、この定例的なものだけでなく、子どもたちに対する出前講座を行う等、広く市民の皆様に広報する手法を今後検討したい。

## (2) その他

会長： その他の議題について事務局から何かあるか。

事務局： 今後の日程について説明する。本日皆様から頂戴したご意見を事務局で精査検討し、2月1日からのパブリック・コメント、3月に市議会定例会での報告、3月末の策定予定としている。最終の取りまとめ・修正等については会長及び副会長にご一任していただきたいと考えているが、このことについて委員の皆様にお諮りしたい。

委員一同： 異議なし

事務局： それでは最終案については、こちらで事務局案を作成し会長及び副会長に一任とさせていただきます。

—了—